令和8年度　文京区障害者地域自立支援協議会
第1回相談・地域生活支援専門部会

日時　令和8年7月17日（金）午前10時00分から午前11時51分まで

場所　文京シビックセンター3階　障害者会館A・B会議室

＜会議次第＞

1　開会

2　委員自己紹介

3　議題

（1）令和8年度自立支援協議会について

（2）支援を円滑に引き継いでいく方法について

（3）暮らしをサポートする仕組みについて

5　総括

6　事務連絡

＜障害者地域自立支援協議会委員（名簿順）＞

出席者

志村 健一 副会長、樋口 勝 部会長、阿部 智子 副部会長、清水 健太 委員、
関根 義雄 委員、三輪 加子 委員、夏堀 龍暢 委員、松尾 裕子 委員、阿部 優 委員、
中谷 伸夫 委員、上村 紗月 委員、大橋 久 委員、齋藤 みさ 委員、福田 洋司 委員、
須田 浩史 委員、荒井 早紀 委員

欠席者

辻廣 直己 委員、渋谷 尚希 委員、加藤 たか子 委員

＜幹事＞

出席者

障害者基幹相談支援センター、障害福祉課障害福祉係

欠席者

なし

＜傍聴者＞

9名

1　開会

・開会挨拶

文京区障害者地域自立支援協議会　副会長　志村健一氏より

・委員自己紹介

2　議題

（1）令和8年度自立支援協議会について

事務局より資料第2号、資料第3号-1～4に沿って説明

（説明概要）

・組織体制（資料第3号-1）： 自立支援協議会は、親会、運営会議、当事者部会をはじめとする5つの専門部会で構成され、地域課題の協議検討を進める。第2回親会は全体会として公開し、成果発表を行う。

・スケジュール（資料第3号-2）： 全体会（2月～3月開催）に合わせ、専門部会は年内（第2回：10月2日、第3回：12月4日）を目安に全3回開催予定。

・検討状況等（資料第3号-3）：これまでの協議会における取組状況を確認。

・各専門部会の検討事項（資料第3号-4）： 本部会（相談・地域生活支援専門部会）では、昨年度に引き続き「支援を円滑に引き継いでいく方法」および「暮らしをサポートする仕組み」について検討する。

（2）支援を円滑に引き継いでいく方法について

事務局より資料第4号に沿って説明

（説明概要）

・昨年度の意見を踏まえ、趣旨や記載内容を変えずにデザインを一新。

・文字サイズを10.5ptから11～12ptへ拡大し、体言止め等の表現を整理

・障害福祉サービスの流れ（黄色）と介護保険サービスの流れ（緑色）を背景色で明確に区別し、相互の連動性が一目でわかるよう見やすさを改善。

（委員意見）

・印刷だけではなく、区のホームページへの掲載や当事者の方も活用できるものの作成を今後検討してほしい。

・当事者用としてルビ入りのもの作成を検討してほしい。

・自己負担に関する不安を解消できる説明や、支援者がどの段階で当事者の方に説明を行うのがよいか等の記載があるとよりわかりやすい。

・65歳以上の介護認定訪問調査は原則居住地で行われる。入院等の事情によっては、相談をしながら実施されることを確認。

・65歳になる前の早期から段階的に介入、説明していくことが重要である。

志村副会長：今回支援者用の作成ということで、今後当事者用についても検討が必要になるかと思う。また、完成したデータは区のホームページに掲載するとともに、支援者用のQAや当事者用のQAをホームページ内に記載することで、共有できるような仕組みづくりを検討していただきたい。一旦今回のものは完成とし、利用していく中で、完成度をより高めていく形でお願いしたい。

(3) 暮らしをサポートする仕組みについて（グループワーク形式）

知的障害のあるAさん（50代男性・一人暮らし・就労継続支援B型利用）の事例をもとに、必要な社会資源や地域課題についてグループワークを実施。

（グループワーク）

各グループの検討内容

○１グループ

・本人の日常生活の支援だけでなく、入所した母親のケアや、金銭管理・生活面を担う兄をはじめとする兄姉へのフォロー体制を整える必要がある。

・将来の暮らしの選択肢としてグループホーム見学の機会を作ることや、ごみ捨てをはじめとする日常の困りごとに対する近隣住民による地域サポートを活用していく必要がある。

・単に手助けをするだけでなく、本人がやりたいことや得意なことを伸ばしていけるよう、適切な支援の調整や見守り・フォローアップをどのように進めていくかを検討。

○２グループ

・平日日中はB型作業所で楽しく過ごせている一方、休日の居場所・社会資源が不足している。

・現状はセルフプランであるが、関係者間で検討し公的な相談支援や計画相談を取り入れることが望ましい。

・グループホームへの入居を検討するにあたり、区内グループホームの不足が課題となる。

・広い持ち家の清掃等に対してヘルパーの導入の検討することができる。

・兄夫婦による金銭管理の将来的な負担を見据え、必要に応じて成年後見制度の情報を共有できる体制づくりが必要である。

○３グループ

・本人が洗濯など家事の負担を感じていることや家族の不安を軽減するため、相談支援専門員に入ってもらい、ヘルパー調整やグループホームの情報提供・すり合わせを行う必要がある。

・通院付き添いを家族が担っている現状を踏まえ、服薬状況の確認や、家族の体調変化に伴う本人のメンタル面のケアとして訪問看護等の導入を検討。

・趣味（鉄道・相撲）の外出機会を広げるための移動支援や自立生活援助を検討する必要があるが、短時間利用の場合、事業者の確保等の課題がある。

・制度的な支援で固めすぎず、行きつけの喫茶店や地域サロンなど「インフォーマルなつながり」を増やし、本人が自主的に暮らしを楽しめる見守り支援を重視していく等の意見が多く出た。

○４グループ

・母親の施設入所に伴い家族へ役割が分散したことで、個々の負担が大きくなり、セルフプランの限界が見えてきている計画相談を導入し、全体をトータルに把握・調整する役割が必要ある。

・姉の希望や本人の意見を吸い上げ、意思決定をまとめる役割を支援チーム内で誰が担うべきかを整理していく必要がある。

・今後を見据えた金銭管理・成年後見制度の活用の検討していくべきである。

各グループの発表を受け樋口部会長より

・姉がグループホーム入所を希望する背景や、サポートを行う兄の思いなど、家族それぞれの思いをICF（生活機能分類）の視点も含めて丁寧に確認・合意形成していくことが重要である。

・文京区内でグループホームをすぐに確保するのは難しく、遠方への引っ越しはAさんの生活環境を一変させてしまうため、本人の意思尊重も含めた慎重な見極めが必要である。

・家族全員の思いを聞き取り、合意形成を図る役割として相談支援専門員の必要性を感じるが、すべてを相談支援専門員1人に担わせるのは過度な負担となる。日々関わっているB型作業所をはじめとする関係事業者と連携し、適切に役割分担をしながら地域全体で支えていくチーム支援が重要性である。

（３）その他

・志村副会長より総括

本日のグループワークで得られた多くの意見や視点を持ち帰り、各機関や現場での展開につなげてほしい。

また今回のように、事例を検討する中で出てきた、地域課題を共有するというのは自立支援協議会の大きな役割である。今回出された地域課題は、区内で共通して起こり得る要素を含んでおり、これを一例にとどめず、新たな社会資源の開拓や地域全体の支援体制の拡充に向けたきっかけにしていくことが望ましい。

以上